

特集

「月は東に 日は西に」から考える

間々田和彦（王立プノンペン大学教育学部）

1. はじめに

王立プノンペン大学外国語学部日本語学科で日本の習俗を扱うとき、十五夜について講義した。受講生は秋の「十五夜」は全員が知っていた。しかしながら、およそ120名の学生の中で、十三夜を知っているのは皆無であった。

2. 十三夜の月

十三夜の月を愛でるのは日本人でも知ることが少なくなった風習で、十五夜の次の十三夜をさす。平安時代からの風習であり、中秋の名月は十五夜で「先の月」、その後の十三夜を「後の月」と言う。両方を祝うのが正式で、片方だけの月を愛でるのは縁起が良くないとされていた。1895年に発表された樋口一葉「十三夜」には、「今宵は旧暦の十三夜、旧弊なれど」との記述もある。

歌では、小笠原美都子「十三夜」(1943)、鈴木雅之(2012)「十三夜」等がある。

「十三夜に曇りなし」とあることから、十三夜は庶民に親しまれてきたと考えられる。

3. 菜の花や 月は東に 日は西に

与謝蕪村の名句「菜の花や 月は東に 日は西に」この句は、高井几董の「宿の日記」によると、これは安永3年(1774年)3月23日に神戸の摩耶山での句会で詠んだ句らしく、その時の月齢は10.8日である。日が沈むころ月は南中(18:33)であることから、当日の月と太陽を見ての句ではない、とされている。

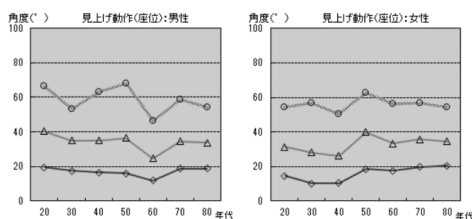
「月は東に」とあれば、月が東の空に昇ったころだろうし、「日は西に」とあれば、夕方

の太陽になる。そうすると、この句の時の月と太陽の位置を考えてみると、十三夜の月に近いのではないかと考えた。

2022年4月15日(月齢13.9)を例にとる。「月は東の空にのぼりつつあり、日は西の空に沈みつつある」時間であるとする、太陽は18時頃に沈み、月の出は15頃になる。その中間の16:30の時点では、太陽・月の共に、高度はおよそ20度になることがわかった。

4. 人間の「仰角」と「俯角」 十三夜の月

一般社団法人 人間生活工学研究センター(2000)の研究[1]によれば、年代別の「楽に見上げる」「すこし無理をして見上げる」「かなり無理をして見上げる」は図1のとおりである。各年齢によって差はあるが、立位座位とも楽に見上げる角度は、ほぼ15度~20度の範囲となっている。



楽に上(下)を見る 少し無理をして上(下)を見る
 かなり無理をして上(下)を見る

図1 人間の仰角と俯角

5. 考察 一与謝野蕪村の句からの考察一

古来より十三夜が十五夜と同じくらいに親しまれていたこと、人が「楽に見上げる」時

の角度が 20 度前後であることから、与謝野蕪村の句を詠んだのは、楽に見上げる十三夜の月を思って詠んだのではないだろうかと考えた。

文 献

[1] 一般社団法人 人間生活工学研究センター[HQL] データベースサイト 『見上げ・見下げ動作』

https://www.hql.jp/database/cat/senior/fu_ncdb2000/%E8%A8%88%E6%B8%AC%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E8%A6%8B%E4%B8%8A%E3%81%92%E3%83%BB%E8%A6%8B%E4%B8%8B%E3

%81%92%E5%8B%95%E4%BD%9C

(20220601 接続)

[2] コペルくん with アヤ先生@note 大学初代教授♡NoWar♡選挙に行こう note ブログ『与謝蕪村【菜の花や月は東に日は西に】をリアルに楽しむには？和歌と【有明の月】』

https://note.com/girls_study_com/n/ndca_d87fdecb

(20220601 接続)

間々田和彦

* * * * *